

## 1. 略歴

2000年4月	東京大学教養学部文科三類入学
2004年3月	東京大学文学部言語文化学科言語学専修課程卒業
2004年4月	東京大学大学院人文社会系研究科言語学専門分野修士課程入学
2006年3月	東京大学大学院人文社会系研究科言語学専門分野修士課程修了
2006年4月	東京大学大学院人文社会系研究科言語学専門分野博士課程入学
2006年4月	日本学術振興会特別研究員 DC1 (東京大学大学院) (～2006年8月)
2006年8月	アメリカ合衆国ライス大学 (Rice University) 言語学科博士課程入学
2009年9月	東京大学大学院人文社会系研究科言語学専門分野博士課程退学
2011年9月	国立国語研究所言語対照研究系 PD フェロー (～2012年3月)
2011年12月	アメリカ合衆国ライス大学 (Rice University) 言語学科博士課程修了 (Ph.D)
2012年4月	日本学術振興会特別研究員 SPD (国立国語研究所) (～2013年3月)
2013年4月	東京外国語大学総合国際学研究院 専任講師
2018年4月	東京外国語大学総合国際学研究院 准教授
2019年4月	東京大学大学院人文社会系研究科 准教授

## 2. 主な研究活動

### a 専門分野

言語学、言語類型論、フィールド言語学

### b 研究課題

オーストロネシア諸語、特に、フィリピン・インドネシアで話される諸言語を中心に、言語類型論の観点から、その文法構造について研究している。具体的には、タガログ語とラマホロット語 (東インドネシア、フローレス島) について、その文法関係やヴォイス現象、情報構造、空間表現を研究し、言語類型論についての貢献を目指している。言語調査においては、フィールドワーク・実験を重視し、実際の談話や会話を撮影・録音することで、経験的事実に基づく記述・一般化を試みている。

### c 概要と自己評価

言語調査にもとづく一次的データを用いてタガログ語の情報構造ならびに意図性にかかわる現象について論文を発表した。さらに、名詞修飾表現や dyad、移動表現についても国際学会で発表を行い、研究を進めている。

### d 主要業績

#### (1) 論文

Naonori Nagaya & Hyun Kyung Hwang. 2018. Focus and prosody in Tagalog. In Sonja Riesberg, Asako Shiohara & Atsuko Utsumi (eds.), *Perspectives on information structure in Austronesian languages*, 375–388. Berlin: Language Science Press

Nagaya, Naonori. 2019. The thematic/categorical distinction in Tagalog revisited: A contrastive perspective. *Gengo Kenkyu* 156: 47–66

長屋尚典、2019、「意図と知識—タガログ語の ma-動詞の分析—」、森雄一、西村義樹、長谷川明香 (編) 『認知言語学を拓く』、23-43、東京: くろしお出版

長屋尚典、2020、「ラマホロット語の方向詞と空間参照性」、文化交流研究: 東京大学文学部次世代人文学開発センター研究紀要 33、31-41

#### (2) 解説

長屋尚典、2019、「フィリピン語・タガログ語」、信田敏宏 (編) 『東南アジア文化事典』、192-195、東京: 丸善出版

長屋尚典、2019、「言語研究の新しい視点」 窪園晴夫 (編著) 『よくわかる言語学』、10-11、京都: ミネルヴァ書房

長屋尚典、2019、「言語類型論」 窪園晴夫 (編著) 『よくわかる言語学』、182-191、京都: ミネルヴァ書房

#### (3) 学会発表

Nagaya, Naonori. Sentence-final particle e in Tagalog. Southeast Asian Linguistics Society 28, Wenzao Ursuline University of Languages, Kaohsiung, Taiwan, May 17-19, 2018

長屋尚典、コメンテーター、80周年記念シンポジウム「日本のヴォイス研究の80年: 成果と展望」、日本言語学会第156回大会、東京大学、東京、2018.6.24

Nagaya, Naonori. Nominalization in Tagalog conversation. 13th Philippine Linguistics Congress, National Institute for Science and Mathematics Education Development, University of the Philippines, Diliman, November 14-16, 2018

長屋尚典、「タガログ語移動表現の経路表示」、日本言語学会第157回大会、京都大学、京都、2018.11.17-18

Nagaya, Naonori. Motion event descriptions in Tagalog, Motion Event Descriptions across Languages (MEDAL). National Institute for Japanese Language and Linguistics, Tachikawa, Tokyo, January 26-27, 2019

長屋尚典、天野友亜、榎本恵実、大久保圭夏、鈴木唯、高橋梓、高橋舜、田中克典、谷川みづき、福原百那、山田あかり、「経路の種類と経路表示 —東京外国語大学における通言語的実験の成果—」、Prosody & Grammar Festa 3、国立国語研究所、東京、2019.2.16-17

Matsumoto, Yo, Anna Bordilovskaya, Kiyoko Eguchi, Kazuhiro Kawachi, Miho Mano, Takahiro Morita, Naonori Nagaya, Kiyoko Takahashi, and Yuko Yoshinari. A crosslinguistic experimental study of fourteen different Paths: Toward a scale-based typology of motion-event descriptions. Presented at the 13th conference of the Association for Linguistic Typology, University of Pavia, Italy, September 4-6, 2019

Nagaya, Naonori. Relativization in Tagalog conversation: A typological perspective. Presented at the 13th conference of the Association for Linguistic Typology, University of Pavia, Italy, 4-6 September 4-6, 2019

長屋尚典、「言語類型論からみた受身とその周辺」、文法学研究会 第8回集中講義「受身とその周辺 —日本語の受身は特殊か—」、東京大学、東京、2019.9.21-22

Nagaya, Naonori. Reciprocity in Tagalog dyad constructions. Workshop on Cross-Linguistic Semantics of Reciprocals. Utrecht University, Utrecht, Netherlands, October 7-8, 2019

Hwang, Hyun Kyung, Julian Villegas, Naonori Nagaya. Cue weighting in the perception of Tagalog stress. Presented at the 178th Meeting of the Acoustical Society of America, San Diego, California, December 2-6, 2019

長屋尚典、内原洋人、「タガログ語の言葉遊びと音韻論」、第17回文法研究ワークショップ:「言葉遊びと音韻論(2)」、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所、東京、2020.1.24

松本曜、吉成祐子、長屋尚典、鈴木唯、高橋舜、谷川みづき、「複数局面経路の言語表示類型:日本語と他言語の比較から」Prosody & Grammar Festa 4、神戸大学、神戸、2020.2.15-16

#### (4) 啓蒙

長屋尚典、2018、「日本語学会と私」、日本語学会(編)『日本語学会80年の歩み』、12-14、日本語学会

長屋尚典、2020、「はやりことばの文法」、『FIELDPLUS』23、16-17、東京:東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所

#### (5) 会議主催

The 29th meeting of Southeast Asian Linguistics Society (SEALS29), 2019.5.27-29

長屋尚典、「構文形態論の新地平:複合語・繰り返し・「語」の境界」、ワークショップ企画、日本語学会第159回大会、名古屋学院大学、名古屋、2019.11.17

#### (6) 共同研究

大学共同利用機関法人・人間文化研究機構・国立国語研究所 機関拠点型基幹研究プロジェクト「対照言語学の観点から見た日本語の音声と文法」(プロジェクトリーダー:窪田晴夫国立国語研究所教授)

東京外国語大学共同利用・共同研究拠点アジア・アフリカ言語文化研究所 共同利用・共同研究課題「マレー語方言の変異の研究」(代表:内海敦子明星大学准教授)

### 3. 主な社会活動

#### (1) 他機関での講義等

東京言語研究所・2018年度理論言語学講座・春期講座「フィールド言語学:右も左もない言語と言語相対論の現在」

東京言語研究所・2018年度理論言語学講座「フィールド言語学」

東京言語研究所・2019年度理論言語学講座・春期講座「歴史言語学入門の入門」

東京言語研究所・2019年度理論言語学講座「歴史言語学入門」

#### (2) 学会

日本語学会、評議員

日本語学会、夏期講座2018 実行委員

SEALS29 Organizing Committee

SEALS Executive Committee